

子どもたちを見守る
二宮金次郎（尊徳）



光徳小学校前庭に立っている二宮金次郎像

光徳小学校の前庭には、たきぎを背負い、読書をしている二宮金次郎の像が立っています。かつて全国の多くの小学校に、金次郎の像が立っていました。家業を助けながら学習に励み、勤勉・向上に勤めるという姿を、子どもたちに刻みつける目的からでした。

学校における金次郎の像の建立は、大正13年（1924）に、愛知県宝飯郡前芝尋常高等小学校に建てられたのが最初とされています。その後、1930年代に入ってから全国各地の小学校に広められていきました。光徳小学校の陶製の金次郎像は、昭和13年（1938）10月に建てられたものです。明治25年（1893）に刊行された最初の小学校修身教科書に登場した二宮金次郎

は、第2次世界大戦終了まで修身の教科書や小学校唱歌に、いろいろな形で続きました。しかし昭和16年12月以降、学校の金次郎像は金属資源として供出されることとなり、銅像のほとんどは学校から姿を消してしまいました。第2次世界大戦後、占領軍は学校から「奉安殿」などの完全撤去を指示しましたが、石像やセメント造りの金次郎像の撤去は不問に付したため残ったものがありました。私たちは二宮金次郎といえば、どうしてもたきぎを背負い勉学に励んでいる金次郎像を目に浮かべますが、実際は6尺豊かな大男で、70歳近くまで生きた江戸時代後期の農村復興の指導者でした。

金次郎は本名を二宮尊徳といい、天明7年（1787）今の神奈川県足柄上郡に生まれ、少年時代に父母を失い、苦勞しながら災害で没落した家を独力で再興しました。この体験をもとにして、天地人三才の徳に報いることを説く報徳思想を形成、また家・村を復興し興国安民を実現する仕法を体系化しました。そして小田原藩に登用されたり、幕臣として農村復興を指導しました。この民衆自身の労働・生産に期待した思想・仕法の教えは、報徳社運動として、幕末以降各地に広まっています。

（名和町歴史研究会 金田 千義）

発掘現場から

29

〜弥生時代のアーティスト〜

鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター名和調査事務所

皆さんは「昔の人の描いた絵」と聞くとなんか想像しますか？『昔』と書いても、今から2千年位前の弥生時代のことです！文字もまだなく、鉛筆も紙もない弥生時代の人々が描いた絵を、現在の私たちが目にすることができるとは、遺跡から出土する物（土器や木製品など）に描かれたくわすかなものなのです。10月半ばで調査を終えた名和飛田遺跡では、現在、遺跡から出てきた名和飛田遺物を整理を進めています。その中に、弥生時代の人々の『絵』が描かれた壺を見つけたことができました。

弥生時代の『絵』には、シカ・魚・鳥・家・船・人物などの種類が見られます。その頃の人々の身近にあったものが描かれているのでしょうか？今回、名和飛田遺跡で描かれていたのは『シカ』でした。鳥取県内で弥生時代の土器にシカが描かれていたのは3例目になります。実はこの時代に描かれている絵の中では『シカ』が一番多いのです。森や草原にはシカ以外の動物もたくさんいたはずですが、なぜシカが多いのでしょうか？



シカの描かれた壺

シカは、肉は食糧に、皮は衣服に、角は色々な道具に、骨はまじないに使われていたと考えられています。余すところなく使う事ができるシカは、当時の人々にとっては「豊饒のシンボル」だったのではないのでしょうか？弥生時代の人々が『シカ』を描いたのは、めぐみを与えてくれる彼らへの感謝だったのかもしれないね。



シカの拓影

私の傑作コーナー

曙短歌会

*印は新仮名

- オリンピックの男子体操世界一道のりけわし金の栄冠 遠藤 定子
- *若きらの同居をけりしじいさまは夜ごと尺八奏でて熱心 金田美彌子
- 北の果てに花畑めぐる馬車にゆれ仲良き母娘の会話聞きいる 塩谷 峯子
- 今日もまた暑くなるらし蝉の声背戸の藕の木に明けよりきそふ 角 公邦
- *仲間等と知らない村をおしやべりし歩ける事の大きいわせ 寺井 悦子
- 笹群の大きく揺れるところより波の音して海ひろがれり 戸野 愛子
- *子を連れて登りしときは遙かなり 青き夏山涼やかに立つ 野口 律子
- 二画めが「あつい」「かゆい」とむすかりて朝まで動く夏の川の水 森本 怜子
- 鱚雲大海原の朝の空 逢坂 常盤
- 蒼天に鳶の笛澄む今朝の秋 國谷 麗子
- 大山の風にふれゆく吾亦紅 砂口英二子
- 句作りに更けゆく刻やちちる虫 角田 久子
- 鱚雲藁屋に淡き翳はしる 津村 春水
- 価値観の違ふ話や鱚雲 橋本 昭子
- 秋茄子彩艶そへて娘に送る 宮川 節子
- 初秋の笹目に水を通しけり 美柑みつはる

笹鳴句会

- 鶏頭を倒して風の去りけり 秋山多喜子
- 爽やかや村放送の魚売り 来海 忠満
- 夫婦して柵田一枚刈り絡る 国谷 耕川
- 秋茄子深みのありし師の教 高島 満代
- 爽やかや玄孫は天使指を吸ふ 津村 春水
- 風紋の移ろいやすく風は秋 中川 幸宗
- 爽やかやナース笑顔の応答 榊田 福女
- はつとする亡夫の声かも夜の秋 松井 愛子
- 大山の影ふかぶかと大根時く 美柑みつはる

みふね句会

- みふね句会